

私は今年度、埼玉県・クイーンズランド州スカラシップ事業奨学生としてオーストラリアのクイーンズランド大学附属英語学校 (ICTE-UQ) に5週間の留学をしました。本レポートでは私の留学生活を通しての活動、学び、体験について紹介します。

1. 埼玉親善大使としての活動

私は今回の留学で埼玉親善大使として『埼玉県とオーストラリアのつながり』と『日本文化と埼玉県の融合』をモットーに埼玉県をPRしました。

まず、『埼玉県とオーストラリアのつながり』としてうどんをホストファミリーに紹介しました。埼玉県の加須は古くから有名なうどんの生産地です。私が通っていた高校も加須にあり、よく「加須のうどん」を家族や友達と一緒に食べていました。オーストラリアはうどんの原料でもある小麦の生産が盛んであり、実際に日本へうどんの原料として輸出されています。私はこのうどんと小麦に埼玉県とオーストラリアの関係性を感じ、オーストラリアの小麦が埼玉ではどのように使用されているのかを紹介しようと考えました。私の食べた温かい加須のうどんは関東風の濃い味付けであったため、実際も出来る限りそれに似せた味付けにしました。ホストマザーの手作りの野菜と、オーストラリア産の鶏肉と牛肉を使い、とてもよい出汁のうどんが完成しました。ホストマザーはうどんの味はもちろんのこと、香りまでおいしいと非常に喜んでくれました。「自分の作った野菜と自国の小麦やお肉がこんなにも美味しい料理になるなんて驚いたし、とてもうれしいことね。」と言ってくれて、大成功でした。

次に『日本文化と埼玉県の融合』として茶道を紹介しました。私は高校生時代に茶道部に所属しており、日本文化の奥深さや素晴らしさを学びました。この素晴らしい文化をオーストラリアの人にも味わってほしいとの思いから茶道のお茶とお菓子をふるまうことにしました。現地に茶筌を持っていき、狭山産の抹茶を使用してお茶を点てました。お菓子には深谷産のねぎを使ったお煎餅と埼玉の老舗の干菓子を選び、実際のお茶席と同じように懐紙の上にのせて提供しました。私はホストファミリーに一つ一つのお作法やお道具の持つ意味を説明しながら、茶道を体験してもらいました。これを通して日本文化だけでなく埼玉県の有名な特産品を紹介することができました。ホストファミリーは茶道を体験し、それぞれの作法やお道具の持つ意味に「なるほど。」といいながら真剣に耳を傾け、感動してくれました。お茶もお菓子も彼らにとって初めての味だったようで、驚きながらも「おいしい！おもしろいね。」と、埼玉の味と一緒に楽しみました。



※ホストファミリーへうどん(右上)と茶道(左上、下)の紹介

2、学校生活

ICTE-UQには毎週月曜日から金曜日の週5日間通いました。初日にクラス分けテストがあり、レベル別にクラス編成されます。私のクラスには日本人のほかにも、中国、台湾、韓国、アラブ首長国連邦、クウェート、サウジアラビア、イタリア出身の生徒がいました。自分と同じレベルの人と一緒に学ぶので、授業に参加しやすくとても良い環境でした。日本の授業とは異なり、生徒みんなが先生の問いに対して積極的に発言し、疑問があれば恥ずかしくさらずにすぐ質問します。最初は戸惑いや自分の英語力の心配があり、なかなか発言できませんでした。しかし、なんとか自分も積極的に授業に参加したいと思い、新しく学んだことは復習し、次に聞かれた時に自信をもって発言できるように努力しました。日本や自分自身について聞かれることもよくあり、最初は緊張しましたが、徐々に慣れていき、発言することが楽しくなっていたのを覚えています。私の留学期間が日本の夏休み中ということもあり、学校には日本人がたくさん

いましたが、互いに英語を使って話すことを心がけました。また、常に英語を練習できるようにするため、なるべく外国人とコミュニケーションをとるようにしていました。私はよく中国や韓国の友達と話していて、時には国家間の問題について話すこともありました。彼らは「戦争を通して様々な問題が指摘されているが、それはあくまでも過去のこと。今ではお互いに対等な国同士としてなくてはならない存在だと思う。だから、過去を振り返ってばかりでなく、みんなが明るい未来を迎えられるようにしていくべきだと思う。」と私に話してくれました。私は、隣国の若者の考えを初めて知り、この言葉に感動しました。実際に私たちは良い友達になれたのだからこれから先、国家間でもより良い関係を築くことができると信じています。また、ICTE-UQがクイーンズランド大学内にあるため、現地の学生と交流できることを利用し、朝や帰りなどの空き時間に何人かのキャンパスにいる現地の人に日本について知っていること、日本の利点・欠点などについてインタビューをしました。ほとんどのオーストラリアの人は日本について、特に食、技術、四季、文化の面で良いイメージを持っていました。このことは日本人としてとてもうれしく感じました。ごく少数でしたが、日本はとても混んでいる、働きすぎ、汚染問題などのマイナスな意見もありました。私は多くのオーストラリアの人が日本について好印象をもっている反面、中には日本についてまったく知らない人がいることに気づきました。このことから、まず日本を知ってもらうために、日本文化を紹介し、さらにそれに埼玉県やクイーンズランド、オーストラリアの要素を結びつけた異文化交流会やイベントなどを開催することでさらに埼玉県とクイーンズランド州の関係強化につながるのではないかと思います。



※クラスメートとの写真

私は、5週間の留学を通して異文化交流の楽しさ、出会いや自分から行動し、様々な国の人とコミュニケーションをとることの大切さを学びました。また、埼玉県のことにもさらに知ることができ、より好きになりました。埼玉県民であることを誇りに思います。ホストファミリーや学校の先生、スタッフの方々、友達など私の周りにはとても親切に温かく接してくれました。多くの人の助けや支えがあるからこそ自分がこうして留学をすることができるのだと思いました。皆さんへの感謝を忘れずに、オーストラリアでの経験とたくさんの学んだことを生かし、これからの新たな挑戦につなげていきたいです。最後になりましたが、今回このような素敵な留学の機会を私に提供して下さった埼玉県と埼玉県庁国際課の皆様をはじめ、ご尽力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

大川 紫苑